

2024 年度 群馬パース大学 FD 活動報告書

本学は豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療職を育成することを目的として、看護師・保健師・助産師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士を養成している。

2024 年度は、学生による授業アンケート回答率の向上、学生 FD 活動の推進、FD 研修会等、授業改善に向けた FD 活動を積極的に展開できた。

I. 学生による授業アンケート

全学科全履修者を対象に「授業項目」「担当教員」「自分自身」に関する質問項目について学生による授業アンケートを実施した。アンケート結果は、外部委託業者に依頼し、集計データより授業設計の段階からそのプロセスを振り返られるよう授業者にフィードバックした。

しかしながら、学生の授業アンケートの回答率は年々低下傾向にあることから、今年度後期より授業者（非常勤講師含む）が最終授業回に、自身の科目に対するアンケート回答の協力を働きかけることを決定した。結果、後期授業アンケートの全体回答率は 26.6%と上昇した。来年度もこの取り組みを継続するとともに、授業者からのコメントを学生にフィードバックすることについて検討している。

II. 学外実習評価アンケート

学外実習評価アンケートは学科単位で実施している。学外実習は感染症対策については昨年とほぼ同様に行いつつ、従来通り病棟等で実習を行うことができた。実習指導改善に向けて「実習項目」「担当教員」「実習指導者」「自分自身」に関する質問項目について実施した。アンケート結果は各実習単位認定者にフィードバックした。

III. ピアレビュー

本学では授業について授業者と参加者とで相互に知識や授業内容・授業方法を共有するピアレビューを実施している。今年度のピアレビュー実施率は全体で 31.4%であった。学科によっては、ピアレビュー可能な授業科目について授業者から情報公開し、授業者と参観者の交渉負担を減らした取り組みも見られた。ピアレビューを積極的に推進していくために、相互に学びやすい体制づくりの構築が課題としてあげられた。

IV. 学生 FD 推進のための交流会

昨年から引き続き学生 FD 推進のための学生と教職員との交流会を、学生（8 名）と教職員（5 名）の参加のもとに実施した（12 月 10 日）。学生からは、本学の良さや、他学科との連携の重要性等、真摯に語り合う様子が見られた。学科内の学年を超えたつながりや、他学科との交流の 2 点を深められるような視点を含め、今後も交流会を定期的開催することを学生とともに共有した。

<交流会の様子>



V. FD 研修会

全教員を対象に、伊藤智範氏（岩手医科大学 医学教育学講座 教授）を講師に招き「22 世紀へ向けた持続可能性のある医療教育～医療系大学の学部生への適切な教育技法を考える～」をテーマとした FD 研修会（9 月 6 日）を開催した。

医学教育における臨床実習でのシミュレーション教育、多職種連携教育、多段階式地域医療実習、キャリア教育等の具体的な教育技法、また「学習者とともにらせん階段を昇る教育者」としての在り方等を学修する機会となった。参加者からは「医療系大学で活用できる点が多々あり参考になった」等の感想が寄せられるなど好評を得ることができた。

VI. 教育研修体系による研修会

教育経験 5 年未満の教員を対象に、榊原暢久氏（芝浦工業大学・教育イノベーション推進センター長 / FD/SD コーディネーター）を講師に招き「半期の授業デザインワークショップ」をテーマとしたファーストレベル研修会（2 月 25 日）を開催した。

講演の内容は授業の到達目標と評価方法、授業方法であり、参加者は自身の授業シラバスの目標等、ワークシートに記載、持参して受講した。参加者からは「授業を振り返り、課題や具体的な改善点を見出す機会となった。」等の感想が多々寄せられるなど好評であった。研修会の当日、臨地・臨床実習指導等で不参加の教員もみられたが、録画視聴により補充した。

<ファーストレベル研修会の様子>



VII. FD ネットワーク “つばさ” 令和 6 年度「週刊・授業改善リレーエッセイ」への投稿について

本学が加盟している、大学・短大・高専における FD の立ち上げ・確立・発展を協同で行う「FD ネットワーク “つばさ”」に、リハビリテーション学部理学療法学科の洞口貴弘講師が授業改善に係るエッセイを投稿し、ホームページに掲載された。